まちだ未来の会第 20 回学習会　　2019 年 2 月 23 日　14：00～16：30 鶴川市民センター

1.取組報告　富岡秀行　（公団鶴川団地自治会事務局長）　鈴木真佐世(柿の木文庫、まちだ未来の会）

・市長宛「要望書」の提出報告　4234 筆集まった要望書を　2 月 18 日に、公団鶴川団地自治会会長の佐久間さん、事務局の富岡さん、まちだ未来の会の代表薗田さんと柿の木文庫の鈴木の 4 人で、公明党のおく議員の口利きで、高橋副市長に手渡しました。石阪市長に手渡すのが従来からの希望でしたが、かないませんでした。高橋市長は、僅か 15 分の面談で、市の公共施設再編計画の趣旨を話し、こちらからの要望については、話の途中で時間が来たとさえぎられ、充分に話ができませんでした。

要望書の署名活動は、3 月いっぱい続けますので、賛同される方は、署名用紙をぜひおもち帰りになって、周りの方に署名をしてもらってください。

・**「鶴川図書館だいすき」のメッセージ**を込めた絵や文を子どもや大人に書いてもらい、それを商店街に展示、最終的には市長に届けたいという趣旨で、お願いの手紙と画用紙を配布しています。この案は、前回の学習会で出た提案を商店街の富岡さんが受けて、すぐに実行の運びとなりました。2 月 3 日の節分祭で、集まった子どもに配布したのを皮切りに、シオン幼稚園、鶴川第三小学校の 1 年から 3 年生までに配布することができました。学童クラブにもお願いしようとしたのですが、市の指定管理を任されている関係でできないと断られた経緯があり、鶴川第三小学校の校長先生が、地域の方々の要望だからと快く引き受けていただけ、感謝いたします。

こちらの絵とメッセージは、節分祭の時に配布した時のもののうち、さっそく鈴木布団屋さんに届いたものです。3 歳のお子さんの絵のお母さんのメッセージが裏に書いてありました。鶴川図書館の存在価値はこのメッセージ通りのものだと思います。

絵とメッセージは、いちおう今月いっぱいが締め切りになっていますが、過ぎても結構ですので、商店街のお店に届けてください。

2.もっと知ろう　町田の図書館と鶴川地域　（鈴木真佐世報告）

町田と多摩地域（京王線沿線７市）におけるの図書館を比較してみると

「町田市立図書館のあり方見直し方針」の資料 3 は、全国の中から人口 40～50 万人未満、面積 100 ㎢の都市という町田市と似かよった都市を対象にしています。でも、町田市の図書館の歴史から考えても、全国一律での比較はなく、多摩地域の図書館と比較すべきであると考えました。　（第１９回の学習会で出たご提案を活かしたものでもあります。）

作表の項目は、「町田市立図書館のあり方見直し方針」の 25 頁の資料 3 に準じたが、さらに２０１７年度と参考のために２０１５年度の　図書館費、資料費、そのうちの図書費の金額も出した。対象は、相互利用している京王線沿線 7 市としました。

上の表は、『日本の図書館　統計と名簿 2017』（日本図書館協会、2018 年 2 月発行）により作成。ただし、自治体の面積は、各市のホームページによりました。

移動図書館は、町田市に 3 台、日野市に 1 台あるだけです。職員数については、勤務時間の換算をせず、実数を挙げています。専任+非常勤・臨時これにカッコ書きで委託・派遣の数を書いているので、職員数として単純な合計はできないため、人口当たりの平均値は出していません。

これらの市は規模がいろいろなので、単純に比較できないため、次に市民１人当たりと
１館あたりに換算して比較したものが次の２つの表です。

（プロジェクターでは）上の（プリントでは）真中の表は、市民1人当たりの蔵書冊数、貸出冊数、2017年度図書館費、同資料費、同図書費の比較です。

市の資料では、町田市は、人口当たりの貸出数、職員数、経常費予算で一位、蔵書数で４位となっていますが、多摩地域では、町田市は、市民一人当たりの貸出冊数は4位だが、2017年度図書館費が6位。それ以外、つまり蔵書数、資料費、図書費は最下位です。

下の表は、1館当たりの人口、1館当たりの自治体面積、1館当たりの専有面積を表しています。1館当たりの人口で、トップの稲城市は、1館当たり14.67（千人）だが、最下位の八王子市は、93.83（千人）であり、約6.4倍の格差があります。

1館当たりの自治体面積は、186.4㎢で6館しかない八王子市が、21.58㎢で11館ある調布市の約15.9倍もの面積となっています。

1館当たりの専有面積は、八王子市がトップになっていますが、広い面積の中央図書館を持ち、かつ館数が少ないことがその理由です。逆に中央図書館以外は、狭い面積の館を多く持つ調布市や府中市は、1館当たりの専有面積が少ない。1館当たりの専有面積を算出することに積極的な意味は見いだせませんが、あり方見直しの資料に準じて載せました。

これらの表から、多摩地域の中では、町田市の図書館の状況は八王子市と並んで、最低レベルであるといえます。町田市の図書館を多摩地域の中で見てみました。このように、現在の町田市の図書館は多摩地域で再開に近いことがわかりました・

町田市の一般会計、図書館費、図書費の推移

財政的に、一般会計の推移と図書館費、図書費の推移を見ています。

町田市の一般会計の推移を見ると、2007を1とすると2017は1.27倍（ピークの2011を1とすると1.03倍）と、増えています。

図書購入費はどんどん下がっていきますが、図書館費はわずかに増えています。

ｼｽﾃﾑ更改によるコスト増、耐震工事、複合施設化による管理費などのコスト増などが考えられます。

2017年度決算では、図書館システム管理料 1億7570万2千円です。

図書費は、大きく下がっています。

町田市立図書館の概要

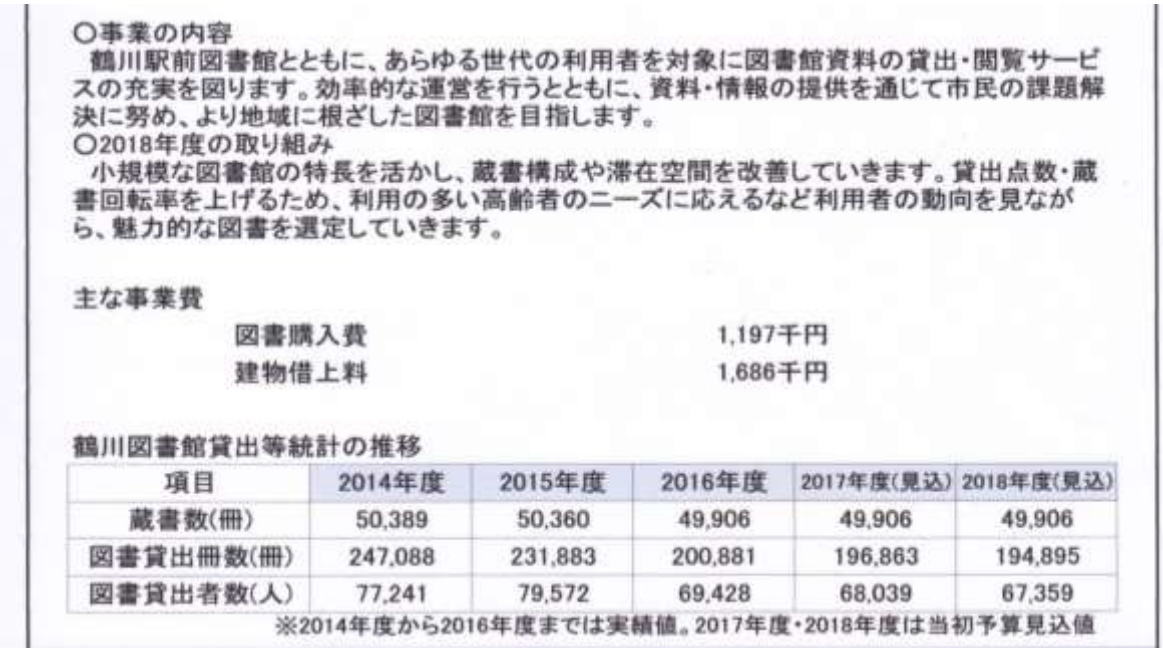
次に町田市の8館の図書館を見てみます。これは、あり方見直し方針の資料として入っているものです。8館の築年数、面積、主要な諸室、独立館か複合館かの区別、土地建物の所有状況、耐震区分、2011年度と比較しての2017年度の貸出点数と増減率、どの地域の住民が利用しているかの上位3位まで、どの館と併用しているかが記されています。鶴川図書館は赤で囲んだところですが、堺図書館に次いで、地元鶴川の人たちの利用度が高いことがわかります。さるびあや金森や木曽山崎図書館では中央図書館との併用が圧倒的に多いですが、鶴川図書館では、駅前図書館との併用は30%強で、それほど多くはないということがわかりました。

1冊の本がどれだけ貸し出されているでしょうか。（各館の蔵書回転率）

この数字は、各館が、Aどれだけの本を所蔵していて、B何冊貸し出されているかを示したもので、BをAで割ったものが蔵書回転率です。これはよく利用されている割合を示していますが、逆にみると、貸し出し冊数の割に蔵書が少ないとも言えます。鶴川図書館の場合は、８館の中で４位で、蔵書数は８館の中で一番少ないけれど、少ない蔵書がフルに利用されていることがわかります。

鶴川図書館の予算

2018 年度は 6174000 円、そのうち、図書購入費が 1167000 円、UR の家賃が 1686000 円
ひと月にすれば、14 万円にしかなりません。そして、事業の内容、2018 年度の取り組みとして、
鶴川図書館の特長をとらえた目標、良い取り組みが書いてあり、この取り組みを実現する方向と図書館をなくす方向とは一致しないように思います。



○事業の内容
鶴川駅前図書館とともに、あらゆる世代の利用者を対象に図書館資料の貸出・閲覧サービスの充実を図ります。効率的な運営を行うとともに、資料・情報の提供を通じて市民の課題解決に努め、より地域に根ざした図書館を目指します。
○2018年度の取り組み
小規模な図書館の特長を活かし、蔵書構成や滞在空間を改善していきます。貸出点数・蔵書回転率を上げるため、利用の多い高齢者のニーズに応えるなど利用者の動向を見ながら、魅力的な図書を選定していきます。

主な事業費

図書購入費	1,197千円
建物借上料	1,686千円

鶴川図書館貸出等統計の推移

項目	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度(見込)	2018年度(見込)
蔵書数(冊)	50,389	50,360	49,906	49,906	49,906
図書貸出冊数(冊)	247,088	231,883	200,881	196,863	194,895
図書貸出者数(人)	77,241	79,572	69,428	68,039	67,359

※2014年度から2016年度までは実績値。2017年度・2018年度は当初予算見込値

町田市と鶴川地域の人口の推移を比べてみると

町田市の人口を 0 歳から 14 歳、15 歳から 64 歳、65 歳以上という年齢区分に分けて、2007 年から 5 年刻みで推移を見てみました。右側が町田市全体です。左下が、広い意味での鶴川地域全体、左上が鶴川図書館のエリアと考えられる地域の人口推移です。これには、鶴川 1 丁目から 6 丁目、小野路、野津田、広袴、真光寺が入っています。鶴川 5，6 丁目、小野路は人口が減っていますが、それ以外の地域では微増しており、エリア全体で見ると、鶴川全体、町田全体の人口構成とほとんど同じだということがわかりました。これらのデータから、鶴川図書館の利用者が高齢者の利用市か望めないということも言えず、今まで以上に子育て世代にとって魅力的な図書館、商店街になるよう工夫すれば、今後の利用増につながると思います。